

今年度から新しく塾生になられたみなさん、はじめまして。これからよろしくお願いします。そして、昨年度から引き続きご参加いただいている塾生のみなさん、今年度もよろしくお願いします。

さて、先月の東北地方太平洋沖地震は想像を絶する大災害をもたらし、東北地方を中心に今なお多くの方々がとても厳しい状況に置かれています。今回の災害は、改めてわたし達が住むこの地球が「生きている」こと、そして、地球の営みは私たちに恵みを与えてくれるだけでなく、時にはつらい試練をも与えるものであることを私たちに再認識させるものでもありました。

ジオパークは地球・大地の営みを学ぶことも目的の一つですが、ジオパークへの取り組みがこうした災害発生時における地域の防災・減災につながるよう、私たちも努力していきたいと考えています。



## 平成 23 年度第 1 回の講座のご案内



「ふるさとジオ塾」は2年目を迎えることができました。これもひとえに昨年度、熱心に参加いただいた1期生のみなさまのおかげです。2年目は、9名の新塾生を迎え、総勢45名で新たなスタートを切ることとなります。月1回、合計12回の講座を予定しておりますので、1年間よろしくお願いします。

最初の講座は、ジオパークそしてジオ塾に関するガイダンスと、かんらん岩の専門家であり当ジオパークの学術顧問でもある北海道大学大学院理学研究院の新井田特任准教授による講座「ジオの魅力を伝えたい」です。様似の「いいもの・いいところ」をジオ塾で1年間楽しむにあたっての基礎的な知識や、様似及び日高の地質の特徴などをわかりやすく学びます。

### 【第1回講座 座学「ジオの魅力を伝えたい」】

1. 日 程：平成23年4月22日（金） 18:30～
2. 会 場：町立様似図書館
3. 持ってくる物：筆記用具
4. 出欠の連絡：不要です。直接会場にお越しください。

## 平成 22 年度第 10 回講座のおさらい

「身近な自然を見直そう」 講師 静内小学校教諭 島田哲也 氏

### 1. 地震を考える

地震はプレートの衝突によって引き起こされる断層運動であることはもう知られているが、そのことが認知されたのはつい30年ほど前のこと。「チリ地震」のマグニチュードは9.5で史上最大、3/11の地震のマグニチュードは9.0で世界史上4番目の大きさ。今回の地震はエネルギーが大きかっただけでなく、揺れが5分間と長く続いたため、エネルギーの多くが波に伝わり、大津波になった。十勝平野付近の地層を詳しく調べてみると、今回の地震と同じように、昔、十勝でも内陸の5kmくらいまで津波が入ったことが判明している。このような津波は400年～600年の周期で発生していることも判明しており、前回は西暦1600年頃と考えられるので、そろそろ警戒すべき時期に来ている。いつ来るかは分からないが、今回の地震は決して他人ごとではない。津波のスピードは非常に速く、水深5000mだと時速800kmとジェット機並み。海岸でも時速40kmくらいと、とうてい走って逃げられ



る速さではない。

## 2. 日高の大規模な地質構造

北海道の地質構造は南北に発達している。日高周辺は「日高変成帯」「ポロシリオフィオライト帯」「イドンナップ帯」に分けられる。変成岩は、熱や圧力などを受けてもともとの岩の構造が変化し新しい岩石になったもの。日高変成帯は「高温・低圧」の影響を受けてできた。ポロシリオフィオライト帯はかつての海洋地殻のなごり。イドンナップ帯は付加体の岩石からなり、激しく変形する「メランジュ」構造をしている。



## 3. 日高山脈の形成

日高変成帯は、今から数千万年前に東側島弧の深部でつくられた。その後、東側島弧は西側のポロシリオフィオライトと接触した。さらに1,300万年くらい前から、千島弧は南西方向への運動を開始し、海洋性地殻に乗り上げる形で西側の島弧に衝突し、隆起を始めた。衝突に伴って、島弧地殻や海洋性地殻の下部にあるマントルをつくらせていた「かんらん岩」が絞り出されるように上昇し、現在のかんらん岩体などのもととなった。これらの断層の活動は日高山脈の隆起で終わったが、千島弧の衝突運動は次々と衝上断層をこしらえ、山地を形成しながら現在も続けている。現在の活動地点は千歳市東方の「馬追丘陵」付近。このように日高山脈は「島弧—島弧衝突」による運動の結果生まれた山脈で、これはヒマラヤ山脈と同じ成り立ちを持つ世界的に貴重な地域。様似町で見ることのできるジオサイト「日高主衝上断層」は、この一連の活動の中心的な現場であり、かんらん岩と並んで極めて重要な存在。



島弧—島弧衝突」による運動の結果生まれた山脈で、これはヒマラヤ山脈と同じ成り立ちを持つ世界的に貴重な地域。様似町で見ることのできるジオサイト「日高主衝上断層」は、この一連の活動の中心的な現場であり、かんらん岩と並んで極めて重要な存在。

## 4. まとめ

身の回りの自然にちょっと目を向けると、意外な発見や驚きがあるはず。「自分にとっての発見や感動こそが、なによりも大切」なこと ← 自然に目を向ける価値はそこにある。地形も、地層の様子も、動物も、植物も、実は日々変化をとげている。何気ない記録が、将来とても大切なものになるかも…。日高、そして様似には、万人が認めるような貴重ですばらしい自然がある。ふるさとに誇りと自信を持って ⇒ そして、次の世代に受け継いでいきたいものです。



H22 皆勤賞の3人

**編集後記**：新年度になり、我が事務局にも10代のニューフェイスが入りました。ジオパークの推進に若い感性とみなぎるパワーで取り組んでもらおうと思っています。次回講座で、塾生のニューフェイスさん達にお会いするのとても楽しみです。

アポイ岳ジオパーク ふるさとジオ塾通信 Vol.6  
発行：2011年4月  
発行元：〒058-8501 様似郡様似町大通1丁目21  
様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会事務局  
電話：0146-36-2120 FAX：0146-36-2662  
E-Mail：apoi.geopark@festa.ocn.ne.jp  
ホームページ：http://www.apoi-geopark.jp/